

令和8年度第2回石狩市総合戦略推進懇話会 開催結果報告書

【日 時】 令和8年9月18日（金）9：30～14：10

【場 所】 石狩市立浜益学園、はまます保育園

【出席者】 6名（15名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	尾方 哲	×	委員	河野 明美	○
副会長	佐藤 愛美	×	委員	船木 幸弘	×	委員	釣本 峰雄	○
委員	伊藤 朱美	○	委員	高宮 則夫	○	委員	笹谷 清一	×
委員	野村 彩夏	×	委員	飯盛 雅仁	×	委員	白井 かの子	×
委員	佐々 菜奈美	×	委員	岩脇 名生人	○	委員	秋田谷 順子	×

【事務局】 企画課長 大川 実、企画課主査 市川 樹一郎、企画課主任 中村 洸太、
企画課主任 日置 達也

【傍聴者】 0名

- 【次 第】 1. 開会
2. フィールドワーク（市内現地視察）
・はまます保育園
・石狩市立浜益学園
3. 意見交換

結果概要

1. 開会

第1回総合戦略推進懇話会后、総合戦略推進本部会議にて懇話会の意見を踏まえた評価等を報告し、承認された旨を報告

2. フィールドワーク（市内現地視察）

（1）はまます保育園

はまます保育園長より、検討経緯や施設概要、運営状況等の説明



（2）石狩市立浜益学園

市及び前期課程・後期課程教頭より、検討経緯や施設概要、運営状況等の説明



3. 意見交換

【角川会長】

- ・ 浜益学園、はまます保育園の両施設について、過疎地域でありながら非常に充実した教育・保育環境が整備されている点に強く感銘を受けた。
- ・ 特に、義務教育学校と保育園の機能が同一地域内で連携し、子育て世代が安心して長く住み続けられる仕組みが構築されている点は、地方の人口減少対策の一つのモデルケースになり得ると感じた。
- ・ 施設面だけでなく、地域全体で子どもたちを見守り育てていこうとする浜益地区の姿勢が随所に感じられ、単なるハード整備にとどまらない、ソフト面での取り組みの厚みも大変印象的だった。
- ・ こうした教育・保育環境の充実は、子育て世代の定住促進や移住検討の後押しにつながるものと考えており、浜益地域、ひいては石狩市全体のさらなる活性化に寄与していくことを大いに期待する。

【伊藤委員】

- ・ 施設のデザインがシンプルながら機能的で使いやすそうである。
- ・ 窓から日本海が見える素晴らしい自然環境であり、知らず知らずのうちに浜益愛が育まれると思う。
- ・ 児童・生徒や両親、教師、地域の大人を含め、小さなコミュニティの中で一体感が得られやすい環境である。
- ・ 着衣水泳、ひぐま講座、はまますマルシェなど、僻地ならではのユニークな取組が印象的だった。
- ・ 保育園 7 人、前期 27 人、後期 15 人という少人数制だが、今後の展望として増加は見込めるのか。また、若い世代や子育て世代の浜益への移住促進の政策が課題に感じた。
- ・ 学園卒業後の生徒たちは、自宅から通学可能な地域に高校が無いため、学園を卒業する段階で、農家や漁業、商店などの家業を継ぐ、地元で就職する、浜益を出て下宿や寮に入って高校や職場に通う、といった限られた選択肢にならざるを得ず、現代の 15 歳での決断としては、本人にも両親にもなかなか辛いものがあると思う。
- ・ だからこそ「素晴らしい学園」を卒業した後の、その先を見据える必要があり、例えば、花川地区のアパートを浜益出身の高校生専用のドミトリーとして安価に提供したり、浜益の農産物（米や野菜など）を定期的に届ける、長期休暇前後の帰省に無料の送迎を提供するなど、自宅から通えない高校生である彼らのハンディを何かしらの形でサポートする仕組みを考えるべきと感じた。
- ・ 道外からの移住を促進することも必要だが、浜益出身者がいずれ浜益に戻り、浜益のために働けるようになることを期待したい。

【高宮委員】

- ・ 浜益学園は、幼保・小・中を完全に一体化した最先端の教育モデルの実践とともに、過疎・少子化に直面する地方自治体にとって、極めて重要な先行事例であるといえる。

- ・学校の活動や事業の報告では、学校・児童生徒・地域が三位一体となり、地域の人との出会い、仕事内容、地場産業などを深く学んでいる姿に、強く感銘を受けた。また、先生方の説明から伝わってくる強い熱量が印象的だった。
- ・普通の公立学校の教育目標といえば、「かしこく、やさしく、たくましく」といった「こども個人の目指すべき姿」だけを掲げるのが定番であるが、当学園の基本理念は、「こどもの幸せ、保護者の幸せ、教師の幸せ、地域の幸せを創る」となっていることに非常に感銘を受けた。
- ・「4つの幸せ（ウェルビーイング）」を並列で掲げ、しかもそれを「創る」と言い切っている点に、浜益学園の優れた「経営マインド」が凝縮されていると感じた。
- ・従来の教育界では「教師の自己犠牲」が美德とされがちであったが、教員の長時間労働やなり手不足が社会問題化する現代において、「疲弊した教師が、こどもを幸せにできるわけがない」というのは当然の理屈である。これを理念の核に据えたことは、学校が教職員の働く環境と人生をこの上なく大切にするという宣言であり、現場のモチベーションを高める最高のマネジメント戦略であると思う。
- ・従来の学校目標では、保護者や地域は外側から学校を手助けやチェックする立場になりがちであったが、当学園は「みんなで一緒に幸せになろう」と呼びかけることで、地域の担い手や地元企業を、単なるお手伝いではなく「自分たちの幸せのために学校に関わるパートナー」へと変えている。
- ・OECD（経済協力開発機構）が提唱する国際指針において、教育のゴールはテストの点数ではなく「持続的な幸せ（ウェルビーイング）」と定義されている。文部科学省の「教育振興基本計画」においても、ウェルビーイングの向上が最重要目標に掲げられている。浜益学園の理念は、この世界基準のトレンドを「4つの幸せ」という誰もが直感的に理解できる言葉で表現しており、この学園の設計者たちのアンテナの高さと本質を見据える力が伝わってくる。
- ・従来の感覚では「新入生0人＝学校の存続危機」であったが、保育園から9年生までが一体となった当学園においては捉え方が変わる。学年の壁をなくした「ひとつの大家族」と捉えれば、1年生のクラスがなくても、他学年との交流や日常の育みは継続できる。この一体型組織ならではの強さを証明できるかどうか、最初の試練になると思う。
- ・どれだけ素晴らしい学校を作っても、学校自体が人口の「発生源」になるわけではなく、雇用や住宅をゼロから創り出すのは行政や経済界の役割である。入学者が0人という数字は、「これ以上、子育て世代向けの施策を後回しにしたら、浜益の未来は本当に終わる」という行政や地域経済への訴えであるといえると思う。
- ・受け皿としての学校がこれだけ本気の「やる気」を見せているのだから、次は若者の住める環境を整え、同時に「地元のこどもを待つ」から「全国からこどもたちを呼び込む」学校へと施策の転換をしていく必要がある。
- ・現在、全国で急増している不登校の児童生徒の中には、大人数の画一的な環境に馴染めないだけで、豊かな才能を持つ子が数多くいる。浜益学園の「超少人数」「家族のような温かい環境」「地域全員で見守る体制」は、そうした層にとって喉から手が出るほど欲しい「奇跡のような環境」といえる。

- ・「人がいない」を、「先生を独占でき、最先端の ICT 教育等を個別に受けられ」に、「浜益の大自然をフィールドワークにできる」を「付加価値」として、「国内留学」や「親子移住」を本気で呼び込むために、「日本一、一人ひとりを大切にする浜益の教育」という独自の『浜益教育ブランド』を磨き上げていくべきと思う。

【岩脇委員】

- ・生徒の教育課程に地域とのふれあいが数多く見受けられた。小さいころから地域を知ること、また、他地域へのアピールなどを通して、多方面につながりができ、将来の可能性を広げるための一手として有用なものであると感じた。加えて郷土愛の醸成にも寄与するものであり、非常に興味深いものだった。
- ・緊急避難場所としての用途もあることから高所に立地しており、急勾配な坂を上らねばならず、スクールバスの運行に若干心配はあるが、景観が良く、のびのび過ごせることから、こどもたちの成長環境としては非常に良い環境であると感じた。
- ・校名や校章を地域住民から募集して決めたことも、地域との関わりを感じられる良い取組だと思う。人口の少ない地域だからこそその住民感情もあると思うので、市と住民で共に創り上げていくプロセスは今後も重要な点だと感じた。
- ・人口の多少で取り組み方は変わって然るべきだと思うため、地域ごとの特色を強みとして様々な施策が講じられていくことを期待する。

【河野委員】

- ・浜益学園は、地域の要望を丁寧に実現した素晴らしい学びの園と感じた。
- ・ウッディで明るい保育園は、こどもたちの笑顔と家庭的な雰囲気であふれ、放課後児童支援も充実していることが窺われた。
- ・小中学校部門では、前期・後期の教室が渡り廊下で繋がっている校舎の造りが児童・生徒が自然に行き交うことができる環境を醸し出していて、不登校がないというのも頷けた。
- ・地域との結びつきが強いことから、独自の学校行事が充実していて素晴らしいと思った。

【釣本委員】

- ・保育園は明るくて清潔だったが、こどもがあまりにも少なく運営は大変と感じた。
- ・床がクッションフロアでないのは、どこの保育園も同じだが、こどもが転んだときにけがをしないかが心配だった。
- ・0歳児の部屋に滑り台があったがどうか。また、絵本が少ないような気がした。
- ・今は幼保一元化が実施され、保育園も幼稚園と同程度の教育を求められているはずであることから、都会のこども園のカリキュラムを参考にすると良い。
- ・学園は改修したとは思えないほどきれいだった。
- ・児童が少ない分、充実した教育が出来るが、複式学級はどうしても学習進度が遅れることから、出来ればどんなに少なくとも単式にするのが理想である。

- ・ 体育館は生徒数から見れば十分だと思うが、格技場が活用されていないのが残念だった。
- ・ グラウンドは7～9年生にはやや狭いように感じた。
- ・ いずれはプールも完備して、地域格差を少しでも無くすようにできたら良いと思う。
- ・ 地方に生まれ育った者はどうしても都会育ちよりも学習面で不利になるが、今は IT や AI で地域格差を解消できるはずであることから、充実した教育をして特認校を目指し、都会の子を受け入れるのも活性化の手段の一つと思う。

令和8年10月8日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川幸治